

平成 2 9 年

区民委員会会議録

と き 平成29年11月29日

品 川 区 議 会

平成29年 品川区議会区民委員会

日 時 平成29年11月29日（水） 午前10時08分～午後1時57分
場 所 品川区議会 議会棟5階 第3委員会室

出席委員 委員長 本多健信君 副委員長 塚本よしひろ君
委員 渡辺裕一君 委員 中塚亮君
委員 木村けんご君 委員 藤原正則君
委員 田中さやか君

出席説明員 堀越地域振興部長 伊崎地域活動課長
遠藤協働・国際担当課長 菅生活安全担当課長
提坂戸籍住民課長 山崎商業・ものづくり課長
安藤文化スポーツ振興部長 鈴木文化観光課長
池田スポーツ推進課長 小川オリンピック・パラリンピック準備課長

○午前10時08分開会

○本多委員長

ただいまから、区民委員会を開会いたします。

本日は、お手元に配付の審査・調査予定表のとおり、視察、所管事務調査、およびその他を予定しております。

本日も効率的な委員会運営にご協力をよろしくお願いいたします。

1 視察

○本多委員長

まず、予定表1の視察を行います。

これより、本日の所管事務調査に関連し、品川歴史館の視察に参ります。説明につきましては、現地において学芸員の方などをお願いしております。

委員および視察に同行される理事者は、第三庁舎2階、駐車場に駐車中のマイクロバスにご乗車願います。放送にてご案内いたします。

なお、本日は午後1時から本会議の再開が予定されておりますため、委員会の再開は本会議終了後となりますので、よろしくお願いいたします。

会議の運営上、暫時休憩いたします。

○午前10時09分休憩

[視察場所：品川歴史館]

○午後1時13分再開

2 所管事務調査

都市型観光について

○本多委員長

ただいまより、区民委員会を再開いたします。視察おつかれさまでした。

それでは、予定表2の所管事務調査を行います。

本日は、都市型観光のうち、品川歴史館の活用について、先ほどの視察を踏まえ、調査・研究を行ってまいりたいと思います。

本件について、理事者よりご説明願います。

○鈴木文化観光課長

それでは、お手元の資料に基づきまして、品川歴史館についてご説明をさせていただきます。品川歴史館についてという資料をご覧ください。

まず、1の品川区の歴史と歴史館の設立目的についてお話をさせていただきます。品川区全体の歴史についてでございますが、国の指定を受けている史跡である大森貝塚、それから品川歴史館があるあたりに存在します大井鹿島遺跡ということで、先ほどの視察でもお話をお聞きいただきましたが、古くは原始・古代にさかのぼるところから品川が始まっております。

中世においては、太平洋海運の隆盛による港湾都市としての発展、また江戸時代になりますと品川宿が設置されまして、東海道の第一の宿場町ということで繁栄したというのが地域の特性でございます。

その後、明治時代には、物流の利便性から近代的な工場が多く設立されたり、近代化における先駆

的な役割を果たしたというところで、品川区としての発展の基礎ができ上がっていきました。

このように、品川区には区の魅力として誇る歴史的資産が多く存在しておりますが、品川歴史館が設立される以前は、よい保存をして、それを活用し、区民の方にも知っていただく状況にないというのが現状でございました。このような中で、区の文化遺産を継承しながら、新しい文化を創造し、区民の方にもそれを知っていただくことも行政の責務ということで検討されておりました。

そこで、品川区制20周年となる昭和42年に区史の編さんをする際に、調査をして発見された資料等の保存・活用ができる資料館の建設についての要望が出されました。また、議会においても、郷土資料館建設の請願が提出され、採択されたことから、区としても長期基本計画の中に資料館の構想を組み込んだものでございます。

こうした経過から昭和60年に、郷土資料の保存と区民文化の向上を目的として、現在の品川歴史館が設立されたというのが目的とこれまでの経緯でございます。

2の観覧者数の推移をご覧ください。近年の利用状況を年間の観覧者数でお示しました。この二、三年は大体1万3,000人前後、これは開館日数、企画展や特別展の期間、長さと内容によって、多少増減がありますが、年間概ねこのぐらいの人数の方にご来場いただいています。

次のページをご覧ください。本日午前中に視察いただきました展示についての概要ですので、詳しくご視察いただいた部分もありますので、ポイントを絞ってご説明させていただきます。

まず、3の展示の概要、(1)常設展示でございます。本日、学芸員からの説明とともに視察をしていただきました1階の展示室です。古代から近世、それから第2展示室にあります近現代の品川等について、常設で展示しております。

(2)特別展・企画展等でございます。こちらは常設展示を補完しながら、さらに品川の歴史・文化を深く理解していただくという目的で、毎年さまざまなテーマで実施しております。①にありますように、今回ご視察いただいた特別展は「大崎・五反田—徳川幕府直轄領の村々」で、12月3日まで開催しております。そのほかにも、この特別展を記念しまして、大崎・五反田にちなんだまち歩き、お茶会、学芸員の解説、記念講演会等を連携して実施することで、多くの方にご来場いただいて、品川の歴史をよく知っていただく意図で実施しております。

また、②企画展でございます。これは年明け、来年2月から3月を予定して今準備をしておりますが、少し切り口を変えまして「災害と品川」というテーマにしました。江戸時代の品川の災害やそれに対応する様子、また現在の区の防災の対応などを絡めまして、単純な品川の歴史ではない切り口で関心を持っていただいて、品川を知っていただくという趣旨で今、検討しているところでございます。

また、③コーナー展示でございます。これは季節、いろいろな事業にあわせまして、毎年工夫して実施しております。今年度は子ども歴史展示コーナーということで、夏休みに主に小学生の方を対象としまして、ワークショップ、体験型のものとか、楽しみながら歴史を学ぶ機会を設けようということで実施しております。また、本年度・来年度は、大政奉還150年記念の事業に区でも取り組みますので、それと連動した企画なども実施しております。

(3)近年作製した展示品でございます。今日最後にエントランスのほうでございましたが、東海道に沿った海岸沿いの護岸石、石垣の石の寄贈を受けたものを展示したり、桜のアクリル標本、あちらも実際に区内のお寺等にありますが桜を、お寺にご相談してお譲りいただきまして、あのようなアクリルの固まりの中に本物を標本として封じ込めて、生の木のときのままの状況を保存して展示しているものでございます。

次のページをご覧ください。そのほか品川歴史館で行っております事業の概要を4でまとめております。(1)は今年度の実施講座一覧でございます。ほぼ毎年同様の視点、テーマで、多くの方に参加いただき、品川歴史館の講堂等を使って開催しているものでございます。

古文書入門の初級編と中級編、歴史をテーマにさまざまな角度で学習していただくという歴史の講座、この間区史を編さんしましたので、それに関連する講座を今年度については、荏原の歴史、それから品川のクジラ、これも先ほど展示をご覧いただきましたが、これをテーマに今年度は実施しております。

また、親子で歴史に親しむということで、今年は和本づくりです。和紙を糸でつづつてつくる昔の本をつくることで、親子の対話や歴史に関心を持つという講座を行っています。同様に、折り紙教室も親子、またはおじいさん、おばあさんと世代間の交流が楽しめるようなものを、地域のボランティアの方の協力を得まして、実際に折り紙を楽しむ教室も行ったところでございます。

(2)その他の事業でございます。展示解説のボランティア、これは昨年、一昨年とボランティアの養成講座を行いました、その受講生の方の中から、展示の解説をしていただくボランティアの方を募りまして、現在18人の方に登録していただいて、活動していただいているところでございます。また、図書資料室の運営や、区の歴史などに関する図書の刊行なども行っているところでございます。

最後に5のその他でございます。本日ご覧いただきました茶室「松滴庵」の公開も、今は老朽化が進んでいるため、普段は貸出しや公開は行っていないのですが、特別展、企画展や何かの事業にあわせて、限定ではありますが、ご覧いただくような公開を行っております。

それから、3点目になりますが、観光のほうの事業につきましては、スタンプラリーのポイントのステーションとして、大政奉還関係、東急、観光大使のシナモロールなどのスタンプラリーでは、品川歴史館もスタンプポイントとして協力しているところでございます。

それから最後、一番下の行になりますが、今年10月18日から、区でシェアサイクルのポート設置、活用が始まりました。品川歴史館も以前から議会でもご指摘いただいていますように、大森貝塚を含め観光資源としての活用という視点がありますので、所管課と協議をしまして、品川歴史館にも現在3台の設置をしているところでございます。利用状況としましては、今日視察いただいたときは、実は4台あったのですが、基本台数の3台より増える場合と、3台全部出てしまうこともありまして、まだポートが少ない段階としては、かなりお使いいただけているかというところでございます。

○本多委員長

説明が終わりました。

本件に関しまして、ご質疑、ご意見がございましたらご発言願います。

○中塚委員

午前中の視察、ありがとうございました。学芸員の熱心な説明と、品川歴史館の積み重ねてきた調査や整理、また今度の企画展も新しい切り口ということで、いろいろと工夫されていることがよくわかりました。ぜひ多くの方に見ていただけるように、今後とも進めていただきたいと思います。

今日の所管事務調査は一応、都市型観光についてという大きなテーマがあるので、その視点でご質問したいと思うのですが、正直に言いますと、品川に住んでいる者からすると、ああ、この場所とか、これは昔からあった地名だとか、すごく関心や興味が湧くので、一つ一つの展示をすごく親しく思うのです。それは住み慣れているところですから、ああ、昔はこういうところだったのだとか、昔の暮らしはこうだったのだとか、この道は今も残っているのだとか、そのようにすごく愛着を持って見られるのですが、逆に言うと、観光客の視点というのが正直言うとわからないのです。そういう意味

では、区としてはどういう視点で考えようとしているのか、そこを伺いたいと思うのです。住民にとって魅力あるものは、きっと観光客にとっても魅力あるものだとは思いますが、慣れ親しんだまちのことを知っている者と初めて見る人では、どこかで視点が違ってくるのかなと。正直そこが何かはわからないのです。そこら辺について、ちょっと区のお考えを聞かせていただけたらと思います。

○鈴木文化観光課長

ご質問の、区民の方の感じる品川歴史館の魅力と観光客の方の感じる魅力の違いということでございます。先ほどご説明しましたように、本来の歴史館の機能としましては、区の貴重な、歴史的な資源の保存と展示をもって、区民の方に区の歴史や現状を知っていただいて、区に愛着を持っていただくというのが本来の趣旨でございます。

ただし、その中で実は現在でも区外から団体での予約をして来館いただくケースも年間にかかなりありまして、純粋に委員がご指摘の、区民として自分の住んでいるところで、ああ、そういうことがあるという関心と、住んでいるところではないけれども、歴史とか、当時の時代風景などに関心を持たれる方たちにとっては、住んでいるかどうかではなくて、違う部分での魅力を感じるというのがあるのかなと考えております。

○田中委員

3の展示の概要の(2)特別展・企画展・コーナー展示のところ、さっきご説明があったかもしれないのですが、「※うち15名は外国人」とあるのですが、これは記念イベントに参加された人数ということですか。

○鈴木文化観光課長

この※の外国人の15名というのは、国際友好協会の協力をいただきまして、在住の外国の方が中心でございますが、品川の歴史とか、日本の文化・歴史についてご覧いただくということで、国際友好協会に所属というか、いらっしゃっている外国人の方にご覧いただいたものでございます。

○田中委員

見ていただいた外国人の方たちからのご意見や感想とかが何かあったらお伺いしたいと思います。

○鈴木文化観光課長

詳しくアンケートをとったわけではないのですが、基本的には、いただいた感想としては、品川にそういう歴史的な貴重な資源が、意外にといいですか、知らなかったものがあるというのは皆さん最初におっしゃることです。それとどうしても品川の歴史という視点よりは、外国の方々が見て、日本の文化や歴史がちょっと珍しいといいですか、関心を持つ視点だということでは意見をいただいております。

○渡辺委員

2の観覧者数の推移という括りで、5年度分が載っています。主な内訳が知りたいです。まずは区分として、100円の有料入場者と、招待的な、無料というか、有料でない方の比率を知りたいというのが1つです。

それと、実際に入場者の内訳を調査するわけではないと思うのですが、次年度も含めたり、傾向として、想定はあるかと思うのです。年代別とか、それこそ区民なのか区外なのか、何かしらの想定的な、推計も含めてあると思うのですが、その辺をお知らせいただければと思います。

○鈴木文化観光課長

申し訳ないのですが、内訳の細かい資料を今日持ってきておりませんので、大まかな割合で申し上げます。品川歴史館については基本的に、小中学生は半額、区立小中学生や高齢者の方などは無料という

ことで、その部分は割合としてはそれほど多くはないと思います。

それから、そのほかで無料の方、区外で無料というのは基本的にはありませんので、ほぼ9割ぐらいは有料の方の数字です。ただし、特別展などの招待客は、資料がないのでちょっとはつきりしないのですが、たしかここには入っていないはずでございます。

それと、今後の想定でございます。今後、今までの品川歴史館の本来の機能以外に、観光資源としての活用ということです。ただ、今、茶室を含めて老朽化が進んできておりますので、観光資源としての活用と、施設の更新・改修も含めて、今年度ちょっと検討しているところでございまして、来年度以降、その計画が確定し次第、それに沿った手順を踏んで、改修なり、新しい機能の付加を進めていきたいと現在のところ考えております。そういう意味では、今後の新しい活用を含めた利用者数の想定というのはまだしていないというのが現状でございます。

○渡辺委員

区民委員会の所管事務調査ということなので、ぜひ委員会でも提言みたいなものをまとめられたらいいという思いを込めて言います。これはどなたが担当され、どなたがやっても、品川歴史館をこの立地でやっていくのはすごく厳しいと捉えています。例えば交通の便も含めて、品川歴史館という単独の目的地で人を集めましょう、観光の拠点ですというのは、どんな方が担当されても、すごく難しいハードルではないかという思いを持っています。

もう一つ、しながわ水族館を例にとっても、決して交通アクセスがよくない。でも、水族館の場合には、いろいろなソフト面も含めて努力して集めてもらっても、もう大幅に集客が伸びるような時代ではないと思うのです。今、利用者のニーズは、こういった学習施設もそうだし、エンターテイメントというものが、単館運営では厳しい、複合化でいろいろなものがセットである、あるいは便利な時代であるがゆえに、この2点、中身のコンテンツの問題とアクセスの問題からして、ここで品川歴史館をひたすら単独でやるのが果たしていいことなのかどうか、そういうそもそも論に踏み込むべきではないかと思っています。でない、よりいいものを提供できないし、やはり多くの方に来てほしいというところで、そういう切り口を全庁的に検討すべきだというのが意見としてありますので、その辺の見解に含みがあるかどうか。まるっきり可能性がないのではなくて、どこかに含みがあるべきだと思いますので、その辺を、都市型観光という観点からいけば、歴史以外に、あるいは先ほど品川歴史館がこの場所でもなくとも、旧東海道沿いなのか、あるいは水族館と併設なのか、思いつきだけでもいろいろな可能性が出てくる。これを含めて検討するほうが有意義ではないかという思いを持っていますので、この辺で、現時点で言える範囲でいいのですが、ご答弁願えればと思います。

○鈴木文化観光課長

品川歴史館の機能や内容のコンテンツ、それからアクセスの面での検討について、どのような状況、考え方かということだと思います。まず、コンテンツにつきましては、ご覧いただいたように、建物の面積としては決して余裕があるわけではございません。それと、先ほど申し上げましたように、茶室だけでなく、本館のほうももう建設後30年を経過しまして、大分老朽化した部分が出てきておりますので、茶室と品川歴史館本館の建物全体を改修なり改築するとき、コンテンツ、展示の部分のスペース、それから重要な資源を保存するための収蔵庫についても、抜本的な見直しが必要だと認識しているところでございます。

では、アクセスのことも含めて、違う場所に設置する可能性でございますが、今の手狭な敷地であっても、あの程度か、もしくはそれ以上の敷地を、ほかのアクセスのいい場所で今から確保するのは、現

実的にはちょっと難しいというのが正直なところでございます。

先ほど品川歴史館にもありましたように、シェアバイクの設置、それからウォーキングツアーで、品川歴史館を単独の目的にして来ていただくのではなくて、近隣の貝塚や旧東海道を品川歴史館の展示と絡めて実際に見ていただくというようなソフトの工夫で、できるだけ観光の機能も強化したいというのが現在の方向性でございます。

○渡辺委員

最後に、これは理事者の方に向けてではなくて、当然この質疑の中では、現状の品川歴史館をベースにししか答弁はできないし、全庁的になると、これはもう大きく超えてしまうことなので、大きな政治判断があってもいいかなという思いを持っています。それは理事者の方ではなくて、議会全体でも議論の価値があるかなと。というのは、それぞれの政策分野で課題があるときに、大井地区の拠点をほかの政策目的でもいいと思っているので、逆に言うと、集客あるいは都市型観光という観点であれば、あそこである必要もないとか、うまくかみ合わせたり、場所の大型トレード、そんな発想をどこかに委ねているのではないかと。これは別に行政の責任において全てやれではなくて、本当にどこかシンクタンク的なものとかに預けて、判断材料を幾つか仰いでも価値があるのではないかと考えています。これは別に答弁を求める話では当然ないのですが、ぜひとも機会があれば、区民委員会をはじめ、検討の場があってもいいかなという感想的な話で終わります。

○木村委員

今日見させていただきまして、本当に原始・古代の時代からさかのぼっているいろいろなことを見たわけですが、品川区が上がる土台、過去のを、年間1万数千人という多くの方が来るわけです。そういうもので品川区が今現在こうなっていて、過去にこういうことがあったということを皆さんに見ていただくのですが、また今度はそれにプラスして、今の品川区の良さとか、文化観光課として何かお客様の誘致をするためのものをつなげるようなことは考えられるかどうか、あったら教えてもらえたらと。

○鈴木文化観光課長

ご質問がありました、純粹な本来の機能である歴史展示以外の活用でございますが、先ほども少し申し上げましたが、大政奉還150周年の関連事業を今年度・来年度と実施してまいります。その中で当然150年前のいろいろな出来事や偉人をテーマに観光の事業を行いますので、そのときにはまさに本来の機能で持っている展示とその内容を合わせた観光ということで連携して事業を展開することで、まず今持っている建物やコンテンツを大きく変えなくても、観光の資源として活用できると考えております。

あともう一つ、先ほどのアクセスで、違う場所に設置することの検討にも関連するのですが、実は先ほど庭園でご覧いただいたように、遺跡の跡がございました。実はあのあたりは大井鹿島遺跡群ということで、品川歴史館の敷地はほぼその遺跡群の中に含まれているものでございますので、例えば改修のときに、当然発掘調査をかけて、そういう存在を確認してからでないかと改築ができません。そのときに新たに出た新しい資源をそのまま展示に使うという可能性も秘めている特別な場所でございますので、そういうことも含めて、できるだけご指摘のような有効な活用をしたいと考えております。

○藤原委員

観覧者数をもう少し伺いたいのですが、確実な数字は今持っていないというお話だったのですが、まずは平成28年度の1万2,022人の中で、学校教育で来ていらっしゃる方の数字がわかれば

教えていただきたいのと、その前に、これに入っているのかという確認です。どのぐらいいるのかというのを教えていただきたいのと、他区の方たちが、いわゆるツアーというか、予約して来るのがかなりあるとおっしゃっていましたが、そのかなりの数字、人数を教えていただきたいと思っています。

それともう一つは、高齢者の方は無料です。お子さんたちは半額の50円です。でも、それは少ないというお話でした。ということは、予算・決算を見ればわかるのですけれども、1万2,000人が全部ということではないのですけれども、それにおいても、1万人が100円払ってくれていても100万円です。あそこの投資対効果という意味においては、入ってくるお金は、観覧者だけの施設という意味ではなく、観覧者だけでしたら、100万円よりもちょっと多いぐらいしかないということにおいて、職員の人件費も入れるなら、全然維持管理費のほうがかかっているわけです。その辺のコンセプトを改めてお伺いしたいと思っています。

それと、今日は都市型観光についての中の品川歴史館の活用です。これも改めて、都市型観光という視点から、品川歴史館を区としてどういうふうに活用していくのかということをお伺いしたいと思っております。

ただ、今日視察に行かせていただいて、私が1つ感じたのは、学芸員の方が説明をしてくださって、私自身、品川歴史館には何回も行かせていただいている中で、品川というものがものすごくよくわかりました。正直わくわくし、感動し、おさらいできました、品川区。すばらしいという思いではあります。これは感想ですけれども、質問に答えていただけますか。

○鈴木文化観光課長

まず1点目の観覧者数のうち、区の学校の児童・生徒の利用でございます。基本的には、教育委員会として、必ず授業で行くという位置づけになっていないのですが、山中小学校とか大井第一小学校のように、近隣の学校については、毎年度複数の回数でご利用いただきます。そのほかの学校につきましても、学校の年間のカリキュラムの中で利用いただく件数は一定程度あるということで、具体的な数字は今申し上げられませんが、人数には入っております。

それと入場料の考え方でございます。ご指摘のように、今、一般の大人の方が100円という入場料では、施設の維持管理また新しい資料の購入や発掘の経費はとて出るものではないですが、本来区の公立の施設として、区民の方に品川の歴史を知って親しんでいただくという趣旨の区の施設でございますので、あくまで低額の料金でご利用いただくというのが基本的な考え方ですので、残念ながら収支を満たすほどの額の収益にはならない。ただ、利用料以外に、いろいろな発行物、グッズの販売も若干ですが行うことで、親しみを持っていただいたり、その他の収入には取り組んでいるところでございます。

それから最後に、都市型観光の視点でどのような活用かということでございます。先ほどもちよっとご答弁しましたように、本来の機能と、大森貝塚や位置する一体の大井鹿島遺跡という歴史そのものを含む施設と敷地でございますので、そこに関心を持っていただく、もしくは大政奉還のような関連するテーマと結びつけて、単に歴史館を見学するのではなくて、観光の視点で楽しむというようなツアーを組んだり、そういう形で今後複数の目的、機能を持たせることができれば、品川歴史館の意義もまた少し広がるかと考えております。

○藤原委員

質問した中で、ツアーがかなりあるとおっしゃっていたので、どのぐらいあるのか。品川歴史館に来た後に旧道でお食事するツアーみたいなものをどこかがしていますよね。何かあったのです、もし勘違いだったら申し訳ないのですけれども。だから、区外から来る方々がどのぐらいいらっしゃるのかとい

うのを知りたいので、その辺についてお伺いします。

先ほど、理事者サイドではなくて、委員の方たちへ渡辺委員が提言してくれた、考えていきたいと思いますというお話が出ましたけれども、私も全く同じで、いろいろなことを考えつつ、将来、品川歴史館があそこにあるべきかも含めて、これからどうすべきかを考えていく時期に来たのかという思いがありますので、それもつけ加えて聞きたいと思っています。

○鈴木文化観光課長

区外からのツアーの件数・人数ということでございます。具体的な数字は申し上げられませんが、頻度としては夏から秋にかけて、毎週のように来ていただいております。そのツアーも、区のほうで組んでいるツアーではなくて、他地域で東京、近隣を回るときに、歴史的な視点や水辺に近いエリアの施設ということで探してこられるケースが多いかと思えます。

具体的なエリアに関しては、当然都内、近郊が多いのですが、基本的には全国、都を除いた道府県からお越しいただいているので、宿泊を伴う旅行や児童・生徒の修学旅行のようなものなどでも来ていただくケースはかなり増えてきていると聞いております。

あと、先ほどご質問の中にありました、品川歴史館に来て旧東海道を歩くようなツアーですけれども、区ではなくて、観光協会が主導しながら、ガイドしながわというボランティアのガイド団体がホームページで一定程度周知をしていらっしゃるようで、ガイドしながわなどの団体に、このあたりを歩きたいという申込みがあった時点で相談をしながらコースを組むということで、品川歴史館に来ていただいているケースは何回もあります。

○藤原委員

品川の観光という意味でお伺いしたいのですが、今日は品川歴史館のことですが、都市型観光という意味の品川という意味で、品川歴史館だけという意味でなく、ちょっとずれてしまうかもしれませんが、例えばしろへびサミットをした上神明天祖神社とか、ちょっと上がって下がって、大仏の五智如来とか、いろいろな意味で、品川歴史館の中にも今日出ていましたけれども寺社とか、品川歴史館も含めた点と点を線にして、線と線を面にして歩いていただくとか、ちょっと距離がありますから、いろいろな考えがあるのですが、品川区を面とした観光を品川歴史館も含めてこれからしていただきたいという思いがありますけれども、最後にその辺はいかがでしょうか。

○鈴木文化観光課長

ご質問いただいたような、区内の各資源を有効に活用したり、つなぐという考え方については、区も同じように考えております。昨年度設置しました観光振興協議会で今、ショートトリップの専門部会を設置しまして、そこで今具体的にウォーキングの資源やエリアを検討いただいておりますので、実際観光に携わる方の検討結果も踏まえて、ご指摘のような有効なまち歩きやいろいろなツアーをしっかりと進めていきたいと考えております。

○塚本副委員長

今まで幾つか質疑があった中で1つ、シェアサイクルについて、かなり利用されているというお話がありました。利用頻度を見て、より多くの方に利用していただくためには、交通アクセスの問題はどうしてもあると思うので、車をとめられないとか、駅から遠いとか。今3台ですか、あの駐輪スペースとか、ポートを拡大することについてはいかがお考えかということをお伺いします。

○鈴木文化観光課長

今回、品川歴史館に設置しましたシェアバイクのポートでございます。基本は3台ですが、今

日は4台とまっている。それから、常にはないのですが、実は5台、6台、あそこはもともと品川歴史館を利用する方の駐輪場の一角に設置しているのですが、少し集中してたまったこともございます。そうすると、一般の利用者の自転車をとめられなくなってしまうのです。現在では、台数をオーバーすると利用者の方の駐輪スペースがなくなるということで、シェアサイクルを運営していますドコモに連絡して、一応配置替えに来ていただくようにしているような現状でございます。

もし、ポートを増設するとなると、敷地内は限られたスペースでございますので、それを何とか、ある程度の工事で措置をするのか、もしくは近隣にもう少し本格的な大きなものを確保することになるかと思いますが、現状ではポート数が区内全体でも少ないこともありまして、まだ検証段階でございますので、当面の間は今の台数で行くと考えております。

○塚本副委員長

わかりました。一応区外から来た方が訪れるのにはかなり有効なところがあると思いますので、今お聞きしたら、若干オーバーするようなどころもあるということですので、できる限りニーズに対応できる検討をお願いしたいと思います。

それから、今日見させていただいて、特別展、特に徳川幕府直轄領の村々ということで、品川区の人が品川区についていろいろ知りたいというか、勉強になる部分もあるのですけれども、日本全体の大きな歴史的なところとつなげての展示だった部分もあって、非常に区外の方の関心も引くだろうし、我々としてもぜひ区外の人に品川と幕府の関係などを知っていただくためにも、多くの方に来てもらいたいと思えるとてもいい内容でした。増上寺の下屋敷として使われていたとか、とても良かったと思うのですけれども、その上で今度、来年2月10日からの「災害と品川」という次の企画展は、今の特別展みたいなものが「災害と品川」に置き換わるのか。そうすると、区外の人に訴えるというか、都市型観光の視点という面ではどういふところがあるのかというのは、ちょっとびんと来ないところがあるのですが、都市型観光の視点としての次の企画展「災害と品川」で何かコメントがあればお願いします。

○鈴木文化観光課長

ご質問のありました企画展でございます。まず、特別展と企画展の大きな違いは、特別展に関しては、品川歴史館で所蔵している資料を中心に組むのが特別展でございます。企画展というのは、企画という名前のおり、テーマに重きを置きまして、他の都道府県の同様の施設や個人の方から資料をお借りしたりして、品川中心の展示にはなりますけれども、品川区に限定せず、少し広く学んでいただくというところに関心を持っていただくということでございます。なので、企画展に関しましては比較的、関連する所蔵資料をお借りしたエリアにはポスターやチラシで周知させていただいて、そちらのエリアの方にも来ていただくという連携もしているところでございます。その辺が大きな違いと企画展の狙いということで考えております。

○塚本副委員長

特別展と企画展の性格の違いがあるということだと思っておりますが、一応「災害と品川」という名前もちょっとシンプルというか、やや脚色もあっていいかなと思うので、人を呼ぶような感じで、決まったものでないのかもしれないのですが、その点も含めていいものにしていただければと思います。

○本多委員長

よろしいでしょうか。それでは、たくさんのご意見をありがとうございました。まだ今後も所管事務調査は続けてまいります。本日いただいたご意見をまとめ等に反映していきたいと思っております。ありがとうございました。

以上で、所管事務調査を終了いたします。

3 その他

(1) 議会閉会中継続審査調査事項について

○本多委員長

次に、予定表3のその他を議題に供します。

初めに、(1)議会閉会中継続審査調査事項についてでございますが、お手元の申出書（案）のとおりでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○本多委員長

ありがとうございます。それでは、この案のとおり、申し出をいたします。

(2) 委員長報告について

○本多委員長

次に、(2)委員長報告についてを議題に供します。

昨日の議案審査の委員長報告については、正副委員長にご一任いただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○本多委員長

ありがとうございます。それでは、正副でまとめさせていただきます。

(3) その他

○本多委員長

次に、(3)その他を議題に供します。

その他で何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○本多委員長

ないようですので、以上でその他を終了いたします。

以上で、本日の予定は全て終了いたしました。

これをもって、区民委員会を閉会いたします。

○午後1時57分閉会